

令和 6 年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園長 宮下友美恵
学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

1	幼児期の発達段階に即した教育環境を整え、子どもたちの自発的な活動をもとにして、生き生きとした意欲的な子どもを育てる。
2	楽しく豊かな生活経験を通して、個性に応じたそれぞれの能力の芽生えを伸ばし、健康的で明るい子どもを育てる。
3	様々な表現活動を通して、豊かな心と創造性の芽生えを育てる。

2 本年度の重点目標

・様々な行事の時期や内容を見直す。
・子どもたちの成長を支える環境づくり（ごっこ遊びを中心として）

3 評価項目に対する自己評価及び学校関係者評価結果

評価項目	自 己 評 価			学 校 関 係 者 評 価	
	評価	取 組 状 況	取組による成果	評価	意 見
様々な行事の時期や内容を見直す	A	・昨年まで 9 月の暑い時期に運動会を実施していたが、運動会当日や練習中の園児の健康、安全を配慮し、10 月中旬に時期を移して実施した。 ・1 学期後半から出会い・発見・創造展に向けての活動をはじめ、9 月の上旬に出会い・発見・創造展を行った。昨年よりも 5 か月早い時期に実施することから、その時期の発達に即した内容や取り組みにするように、教師間で丁寧な話し合いをした。 テーマを「ごっこ遊び」に関するものにして、出会い・発見・創造展での経験や表現が、その後の遊びに繋がっていくように工夫した。 出会い・発見・創造展を通して、子どもたちにどのような力が育ったかを「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」の視点で整理し、写真や図を使って保護者や小学校の教師に伝えるようにした。 ・2 月に実施したありがとうの会は、一年の経験を生かして、年長児、年中児がクラス全員で劇を演じた。年少児もストーリーのある簡単なオペレッタに取り組んだ。 ・風邪やインフルエンザが流行する時期であったため、せりふを大きな声で言う劇の練習は、子どもたちの健康管理に気を配りながら行った。	・運動会の時期を遅らせたことで、昨年よりも熱中症の危険性が低くなり、落ち着いて運動会に向けての取り組みをすることができた。 ・出会い・発見・創造展を昨年までのような「一年の集大成」という位置づけではなく、そこでの経験をその後の遊びや行事につなげていくという意識を共通にもって取り組んだことで、楽しみながら活動することができた。また、みんなで作ったもので、長い期間遊ぶこともできた。実施時期が早かったことで、年長は、昨年までのようなクラスみんなで何度も話し合い、作り上げていくという経験は少し難しかった。 ・子どもたちの育ちの姿を整理し掲示したことで可視化することができ、保護者や小学校の教師にも、わかりやすく伝えることができた。 ・3 学期のありがとうの会ということもあり、昨年より一人一人の取り組む姿が積極的で、自分の役割をはりきって果たそうとする姿や、友達と協力し合う姿が多く見られた。寒い時期ではあったが、多くの祖父母が会に参加してくださり、子どもたちも自分たちの劇を認めてもらう喜びを味わうことができた。 ・2 学期、3 学期はその他の行事も多いため、あわただしい感じがした。それぞれの行事の意義や位置づけを検討しながら、行事の精選をしていく必要があると思う。	A	・運動会を 10 月に動かしたことで、熱中症の心配なく練習できたことはよかった。小学校などで、1 学期に運動会を移した学校もあったが、子どもたちが落ち着いて運動会の取り組みをしたり、友達と協力したりするためには、やはり 2 学期の方が良いということで、また秋に戻しているところも多い。 ・行事の時期を動かすことは計画や準備の面でとても大変だと思うが、自然環境の変化等に応じて柔軟に行事の時期を変えようとした努力はとても評価できる。一つの行事だけでなくいくつもの行事が同時に移行したのでそのチャレンジは更に大変だったと思う。 ・音楽発表会やありがとうの会の劇も見学させていただいたが、それまでの経験を生かして表現する姿は素晴らしいと感じた。日々の積み重ねがそのような行事もにつながっていると思う。 ・保護者としては、出会い・発見・創造展の時期が以前と変わっても、違和感はなかった。創造展で作ったもので、その後続けて遊ぶことができたことはよかった。
子どもたちの成長を支える環境づくり（ごっこ遊びを中心として）	B	・1 学期は出会い・発見・創造展に向けての活動と連動させながら、ごっこ遊びの環境づくりをした。 ・年少児は、食べ物や乗り物など、ごっこ遊びに使うものを教師と一緒に作ったり、材料を用意したりすることで、なりきって遊ぶ姿が見られた。友達とのかかわりがもてるような空間づくりを心掛けた。	・年少児は自分のなりたい役になりきって楽しむ姿が見られたり、隣のクラスのごっこ遊びに関心をもったりするようになった。出会い・発見・創造展で作った食べ物や車を 2 学期以降も友達と一緒に使ってごっこ遊びを楽しむ姿がみられた。 ・年中児はごっこ遊びを通して、新しい友達とのかかわりが広がったり、ごっこ	A	・家庭でもごっこ遊びのことを子どもが話すことがあり、特に自分の意見を友達や先生が認めてくれた時には、うれしそうに報告する姿が見られた。 ・保育の様子を見させてもらった時も、子どもたちが考えを出し合いながら、いろいろな材料を使って、ごっこ遊びに必要なものを作り、遊び

		・年中児は、ごっこ遊びを楽しむ時間を十分に取り、子どもたちの思いを聞きながら、遊びが継続して広がっていくような環境づくりを心掛けた。また、気の合う友達と思いを伝え合ったり、力を合わせたりできるような援助をした。 ・年長児は、本物らしくしたいという思いが強いので、その思いを実現できるような材料を用意し、子どもたちが自分で選んで使えるようにした。友達と考えを出し合い、試行錯誤しながらごっこ遊びを進めていく時間と空間を保障するようにした。	遊びを継続して進める楽しさを味わうことができた。 ・年長児は様々な材料を使って、自分がイメージしたものを作っていく楽しさを味わうことができた。自分が経験したことを、ごっこ遊びの中で工夫して表現しようとする姿が見られるようになり、友達との関係も深まった。 ・ごっこ遊びを充実させていくためには、教材研究をしていく重要性を強く感じた。教師間で情報交換をしたり、共に考えたりする時間を確保していくことが課題である。		を楽しむ姿が見られた。 ・教材研究のための時間の確保ということが自己評価で課題になっているが、掃除をしながらといった日々のちょっとした時間を使った教師間での情報交換はきっとできていると思う。そのような積み重ねが大切なのではないか。 ・遊びの材料はどのようなものでも発想次第で活かすことができると思う。例えば乾電池をおもりに使うといった工夫もできるので、ぜひ柔軟に材料について考えてほしい。
--	--	--	--	--	--

評価（A…十分に成果があった　B…少し成果があった　C…成果がなかった）

4　来年度取り組むべき課題

・子どもたちの成長を支える環境づくり～ごっこ遊びを通して～ ・インクルーシブ教育を進めるためのチーム保育の在り方
--

5　財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。
